

～ガバナーメッセージ

「復興のシンボル千年希望の丘植樹に寄せて」

国際ロータリー第 2590 地区
ガバナー 湯川 孝 則



「千年希望の丘」は、2011年3月11日の東日本大震災の津波により人が住めなくなった土地を活用し、市の沿岸約10kmにわたって全国のボランティアの方々による植樹が行われている場所です。森の防潮堤協会の提唱により、2013年から5か年にわたり全国からボランティアが集まり30万本の植樹が行われました。千年先まで子どもたちが笑顔で幸せに暮らせるよう願いを込めて「千年希望の丘」と名づけられ、復興のシンボルとされています。

その土地本来の樹木による「いのちを守る森の防潮堤」構想を提唱したのは、横浜国立大学名誉教授の宮脇昭先生です。その構想を具体化し実現させて「千年希望の丘」を命名したのは、当時の岩沼市長であった井口経明氏です。そして、宮脇方式の植樹を実践し、全国からボランティアを募り、一大イベントとして実施してきたリーダーが、一般社団法人森の防潮堤協会の理事長の日置道隆氏です。日置氏は、伊達家ゆかりの「輪王寺」のご住職でもあります。この井口氏と日置氏をお招きして、「ともに植えようロータリー」と題したINTERCITY MEETING(当地区第6・7・8グループ)が、3月17日に開催されました。

震災復興のトップランナーである井口前市長からは、大震災と津波が発生した当時の状況や、宮脇先生や日置住職との出会いのエピソードを交え、千年希望の丘での植樹の意義

をお話いただきました。また、日置氏からは、仏教者から見た物心両面における植樹活動の大切さをお話いただき、大変有意義な時間を過ごすことができました。

2018-19年度RI会長イアン・ライズリー氏は、2018年4月22日の「アースデイ」までに、全ロータリアンが木を植えるように呼びかけています。地球環境を保全するために120万本の植樹をしようというものです。日本各地のロータリークラブでも関心を持って植樹を行っています。私たち第2590地区においては、地区全体でこのテーマに取り組み、行政や植樹の専門家、そして多くの方々のお力添えをいただきながら、後世の歴史に残る「ロータリーの森 千年希望の丘」の実現に向けて邁進しております。

私たちは、森の防潮堤協会とともに、2018年4月21日に宮城県岩沼市「千年希望の丘」に1万5千本の植樹をいたします。その植樹の意義は、地球環境の保全とともに、未来の子供たちの命を守る森の防潮堤をつくることです。地区ロータリアンが一丸となって、東日本大震災の復興シンボルとなる千年希望の丘で、「ともに植えようロータリー！ 友達になろう！」を実践しましょう。会員の皆様から頂いた貴重な浄財は、このプロジェクトに使わせていただきます。皆様のご芳志に心より感謝申し上げます。